



大野俊明《清隅の》1996年 奈良県立万葉文化館蔵

万葉日本画の世界展

古のこころを描く

2022年
9月30日(金) — 11月27日(日) ※会期中無休

開館時間：午前9時30分～午後5時30分(入館は午後5時まで)
入館料：一般1,000円(4枚セット券3,000円)／大学生800円／高校生500円／中学生以下無料
主催：公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム
後援：中日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、NHK津放送局、三重テレビ放送
監修：奈良県立万葉文化館
企画協力：青幻舎プロモーション

ご来館の際は、マスクの着用等、新型コロナウイルス感染症の予防にご協力ください。

関連イベント

記念講演会

日時：11月6日(日) 午後2時～午後3時30分
演題：「万葉の心を伝える万葉日本画」
講師：染田英美子(奈良県立万葉文化館学芸員)
参加料：無料(要入館券) 当日受付、先着50名
※関連イベントは諸事情により、中止になる場合がございます

万葉日本画の世界展

古のころころを描く

古代より日本では言葉は「言の葉事の端」と言われ、大切にされてきました。古代に生きた人々の「言の葉」を萬に集めた『万葉集(萬葉集)』は、たんに日本最古の歌集というばかりではなく、当時の社会、生活、文化を背景に、人の愛を歌う相聞、死を悼んだ挽歌、季節の美しさや生活の姿を映した雑歌など4500首余りの歌が収められ、たくさんの歌ころが詠み込まれています。

本展では、奈良県立万葉文化館が所蔵する現代日本画家に描かれた秀麗な作品をご紹介します。

万葉歌から響き合うように生まれた日本画の世界を心ゆくまで堪能ください。

◎ 出品作家 (五十首順)

- | | | | |
|-------|------|--------|-------|
| 青山巨幹 | 岡村倫行 | 関口正男 | 平山郁夫 |
| 荒井孝 | 奥田元宋 | 千住博 | 福王寺法林 |
| 安野光雅 | 片岡球子 | 高山辰雄 | 牧進 |
| 市原義之 | 加山又造 | 田淵俊夫 | 松尾敏男 |
| 井上稔 | 川崎春彦 | 坪内滄明 | 松村公嗣 |
| 今井珠泉 | 岸野圭作 | 手塚雄二 | 三谷青子 |
| 上村淳之 | 北野治男 | 中島千波 | 三輪見久 |
| 上村松堂 | 絹谷幸二 | 中野弘彦 | 村上裕二 |
| 梅原幸雄 | 木下育應 | 那波多目功一 | 森田りえ子 |
| 大野俊明 | 工藤甲人 | 西田俊英 | 山下保子 |
| 大矢十四彦 | 久保嶺爾 | 浜田泰介 | 吉澤照子 |
| 大矢紀 | 清水操 | 林潤一 | 吉村誠司 |
| 岡信孝 | 荳司福 | 平岩洋彦 | 渡辺洋子 |
| 岡橋萬帆 | 杉松儀 | 平松礼二 | |



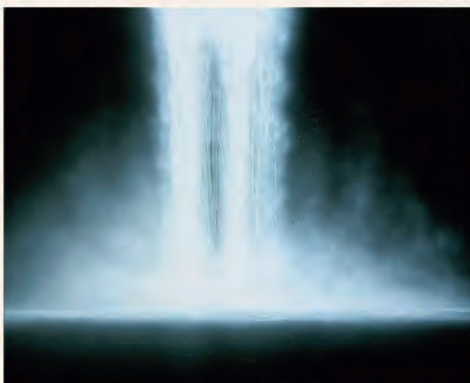
片岡球子《富士》1998年



奥田元宋《明日香川夕照》1996年



加山又造《月と秋草》1996年



千住博《ウォーターフォール》1999年



田淵俊夫《はぎの頃》1998年



三谷青子《鹿》1997年

※掲載作品の所蔵は、すべて奈良県立万葉文化館です

次回展示のお知らせ

2022.12.3(土) ▶ 2023.1.29(日) シダネルとマルタン展
最後の印象派 — ペル・エボックの光の巨匠

※12月28日(水) ~ 1月1日(日・祝) は休館

19世紀末~20世紀初頭、フランスを中心に活躍したアンリ・ル・シダネル(1862~1939)と、その友人の画家アンリ・マルタン(1860~1943)。本展は、印象派の最後の世代と目され、アンティシズム(親密派)の画家としても語られる二人に焦点を当てた展覧会です。あたたかな日差しや黄昏の薄明りにつつまれた、穏やかながらも神秘的な世界を描いた作品の数々をお楽しみください。

■お車をご利用の場合 / ○東名阪[四日市IC]より湯の山温泉方面へ約6.5km ○新名神[菟野IC]より約4km ■無料駐車場有り(普通車100台、大型バス駐車可)
■電車をご利用の場合 / 近鉄[四日市駅]より近鉄湯の山線にて約25分、「大羽根園駅」下車、湯の山温泉方面へ300m ■全館バリアフリー、車椅子常備

